

2026/1/21

中経論壇

経営支援 NPO クラブ 監事 吉田 仁



に人類の理想であり、究極の幸せなのだろうかと考えさせられた。

人間の究極の欲望というキヤッチフレーズで、不老長寿を扱ったNHKスペシャルを見た。血液成分の交換や幹細胞の注入など、抗老化の科学的研究が進んでいて、20歳ほど若返ったという女性が紹介されていた。動物学的には、人間の寿命は38歳だというから、新薬の開発を含む医学の進歩により、人は今でも倍以上の長寿を得ているが、さらに寿命が延びることになる。細胞を若返らせる薬ができれば、理論的には不死に近づくことになるが、それは、本当のことになるが、それは、本

歴史上秦の始皇帝が不老不死の薬を求めたり、理想郷で永遠に生きることを目指す神仙思想が生まれたように、不死への願いは人の心の中にあったと思う。しかしながら、一方において、人は不死を苦痛と考えてきたので

不老長寿の薬

と思う。

特に日本人には、単に長生きすること、を美徳と考えない精神風土があった。もののあわれやはかなさへの美意識は、ものには終わりがああることを前提としてい

る。吉田兼好は、世をむさぼると真の生きがいを得られないと言ひ、江戸時代の武士は単なる長寿より潔さを求めた。これは、命を軽んじているというより、人生の意味を生き甲斐の観点からとらえているのだ。日本人には、長生きに勝る価値観が存在した。先のテレビを見ながら考えたのは、人の幸福を、命の長さ

私も若い時には、人生のゴールを先のことと認識していたから、時間に対する緊張感が今よりずっと薄かった。喜寿を過ぎ、NPO活動が続いているのも、限りある人生において、より密度の濃い時を過ごしたいと思うからであり、それが生活に張りを与えてくれる。NPO活動が大いなる自己満足であっても、少なくとも高齢者医療費の削減には貢献している。私が願う不老長寿の薬とは、寝付くことなく活動できる健康寿命を延ばしてくれるものであり、

大切なのは健康寿命を延ばすこと

抗老化の科学的研究により、そのような薬の開発が進むなら、その恩恵を受けたいと思う。